

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門

循環器理学療法研修（フェローシップ制度）

2020年8月

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門
心臓リハビリテーションチーム

I. 背景

年々心不全患者数は増加の一途にあり、2035年までには心不全パンデミックを生じ130万人に到達するといわれている。心不全は再発予防が重要であり、運動療法だけではなく自己管理、食事、社会的背景への介入など包括的な視点が必要不可欠となる。また、認知・身体機能低下を有し地域連携が必要となる症例も多い。

これらの課題に対応する包括的心臓リハビリテーションを実施できる理学療法士の育成が急務であるが、循環器理学療法領域においては卒前及び卒後の教育システムは十分に確立されていないことが課題である。そのため当院では循環器領域の卒後研修として、平成23年～25年度「文科省事業：高度急性期医療を支援する医療人教育モデル」を開始し、その後も広島大学病院における卒後臨床教育システム「循環器理学療法研修」として包括的心臓リハビリテーションを行う人材の育成を行ってきた。

II. 目的

適切なリスク管理を行い、エビデンスに基づいた運動療法を実施できる理学療法士、かつ、多職種と連携し包括的介入を実践できる理学療法士を育成すること。

III. 基本理念

- 超急性期から慢性期まで幅広い循環器領域のリハビリテーションが行える、臨床能力の高い理学療法士を育成すること。
- 多職種協働のチーム編成を活かし、循環器領域ガイドラインでも推奨される包括的介入や協働を実践できる理学療法士を育成すること
- 医師との共通言語を持ち、適切なリスク管理や報告・連絡・相談が行える、医師の負担軽減を図ることができる理学療法士を育成すること
- 自己課題をもって業務を行える人材を育成すること

IV. 基本方針

- 病態理解、リスク管理に基づいた超急性期からの離床介入
- 再発予防・在宅支援までを見据えた包括的心臓リハビリテーションの実践
- 維持期（外来心臓リハビリテーション）の2次予防介入
- 学会研修会の積極的な参加、研究活動の実践

V. 目指す理学療法士像

- 心疾患の専門的な知識を有しリスク管理をはかりながら適切な運動療法を実践できる理学療法士
- 多職種と連携し包括的介入ができる理学療法士
- 医師や看護師など多職種に信頼される理学療法士
- 心疾患患者の理学療法、協働の楽しさを語れる理学療法士
- 自己研鑽（学会や研修会参加、学会発表）が自発的に行える理学療法士

VI. 研修内容

【経験できる疾患】

- 循環器内科：心不全症例、虚血性心疾患、弁膜症、各種心筋症、不整脈（ペースメーカー植え込み、アブレーション後など）
- 心臓血管外科：虚血・弁膜症・大血管疾患への開胸開腹手術、EVAR・TEVAR
- 循環器内科&心臓外科共同：
TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）、Mitra Clip（経皮的僧帽弁形成術）、WOLF-大塚法

【院内におけるカンファレンス、研修会】

- ・心不全センター多職種カンファレンス（週1回心不全患者に多職種で介入し問題点を検討する会議）
- ・研修医セミナー（各診療科から最新の知見などの講義）

【他部門他施設見学】

- ・他施設見学：相談可能
- ・他部門見学：エコー検査など